

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 26 年 2 月 10 日 12 時 45 分 ~ 14 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 38 問で解答時間は正味 1 時間 15 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例)101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑 法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (a) (b) (c) (d) (e)

↓

101 (a) (b) (●) (d) (e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	(●)
(d)	(d)
(e)	(e)

→

- 1 就業者数が最も少ないのはどれか。
 - a 医師
 - b 看護師
 - c 保健師
 - d 薬剤師
 - e 歯科医師

- 2 小児の両眼の強度遠視への対応はどれか。
 - a 経過観察
 - b 輻湊訓練
 - c 矯正眼鏡装用
 - d 縮瞳薬点眼
 - e 両眼内直筋後転手術

- 3 悪い知らせを伝える際の「SPIKESモデル」に該当しないのはどれか。
 - a 面談の環境を整える。
 - b 患者の認識を評価する。
 - c 知識と情報を提供する。
 - d 患者の感情に共感を示す。
 - e 医師のストレスを説明する。

4 がんの転移によるリンパ節腫脹の特徴はどれか。

- a 軟らかい。
- b 圧痛がない。
- c 可動性がある。
- d 皮膚に熱感がある。
- e 相互の癒合がない。

5 3歳児で発達の遅れとされるのはどれか。

- a 三角が書けない。
- b 二語文が話せない。
- c スキップができない。
- d おもちゃが片付けられない。
- e 服のボタンがかけられない。

6 肝臓の触診について正しいのはどれか。

- a 打診に先立って行う。
- b 胸式呼吸を行わせる。
- c 患者を右側臥位にする。
- d 吸気時に触知しやすい。
- e 双手診で肝臓の背面も評価する。

7 介入研究はどれか。

- a 横断研究
- b コホート研究
- c 症例対照研究
- d ランダム化比較試験
- e ケースシリーズ研究

8 抑うつ状態を示す高齢者について、うつ病と認知症との鑑別に有用な情報はどれか。

- a 病識がない。
- b 日内変動がない。
- c 早朝覚醒がある。
- d 記銘力が保たれている。
- e 頭部単純 CT で梗塞巣がある。

- 9 点滴器具の模式図(別冊 No. 1A)と部品の写真(別冊 No. 1Bア～ウ)とを別に示す。
部品の正しい位置を示すのはどれか。

	①	②	③
a	ア	イ	ウ
b	ア	ウ	イ
c	イ	ア	ウ
d	ウ	ア	イ
e	ウ	イ	ア

<p>別冊 No. 1 A、B ア～ウ</p>

- 10 健康日本 21 の目標のうち、中間評価の時点で目標値に達した項目はどれか。
- a 未成年者の飲酒をなくす。
 - b 未成年者の喫煙をなくす。
 - c 男性の日常生活における歩数を増加させる。
 - d 中学生や高校生で朝食を欠食する人をなくす。
 - e 80歳で20本以上自分の歯を有する人の割合を増加させる。

11 医学の歴史的発見と発見者名の組合せで正しいのはどれか。

- a 通仙散 ————— 貝原益軒
- b 体外受精 ————— Edward Jenner
- c ワクチン ————— Barry Marshall
- d ペニシリン ————— Alexander Fleming
- e *Helicobacter pylori* ————— Robert Edwards

12 行動変容のステージとアプローチの組合せで適切なのはどれか。

- a 無関心期 ————— 具体的行動の指導
- b 関心期 ————— 動機付け
- c 準備期 ————— 実行の強要
- d 実行期 ————— 罰則設定
- e 維持期 ————— 支援終了

13 肢位の写真(別冊 No. 2)を別に示す。

異常所見を見出すためにこの肢位が最も適しているのはどれか。

- a 肝性脳症
- b ラクナ梗塞
- c Parkinson 病
- d 甲状腺機能亢進症
- e 良性発作性頭位眩暈症

別 冊

No. 2

14 高齢者の転倒のリスクファクターでないのはどれか。

- a 円背
- b 運動習慣
- c 視力障害
- d 多剤服用
- e 脳梗塞の既往

15 ある疾患に関する検査結果を表に示す。

(単位:人)

		疾患	
		有	無
検査	陽性	80	20
	陰性	10	90

正しいのはどれか。

- a 感度は0.80である。
- b 特異度は0.82である。
- c 偽陽性率は0.90である。
- d 陽性適中度は0.89である。
- e 陰性適中度は0.10である。

- 16 うっ血性心不全について正しいのはどれか。
- a 浮腫は顔面に著明である。
 - b 呼吸困難は仰臥位で軽減する。
 - c 肺水腫は左心不全の所見である。
 - d 肺動脈楔入圧の上昇は右心不全の所見である。
 - e 左室駆出率が正常の場合うっ血性心不全を否定できる。
- 17 栄養サポートチーム(NST)について正しいのはどれか。
- a 診療科単位で組織する。
 - b 医師はチームに加わらない。
 - c チームは患者に直接は接触しない。
 - d 中心静脈栄養の患者にも関与する。
 - e 栄養投与経路の変更に際して担当医の許諾は不要である。
- 18 大量の鼻出血のため搬入された成人患者にまず行うのはどれか。
- a 電気凝固
 - b 鼻根部圧迫
 - c 顎動脈塞栓術
 - d 外頸動脈結紮
 - e アドレナリン含浸ガーゼ挿入

19 高血圧と糖尿病で通院中の75歳男性に対する熱中症の説明として適切なのはどれか。

- a 「外出時に注意すれば大丈夫です」
- b 「ひどく汗をかくのが典型的です」
- c 「頭痛や悪心は自覚症状としてはまれです」
- d 「口渇感がなくても水分の補給が必要です」
- e 「スポーツドリンクを大量に補給すれば予防できます」

20 成人男性の交通事故で救急患者受入の要請があった。事故現場到着時点での血圧は触診で80 mmHg とのことである。

救急外来で血管確保のために準備しておくべき留置針の太さ(G)で適切なのはどれか。

- a 14 G
- b 18 G
- c 24 G
- d 30 G
- e 34 G

21 50歳の男性。上行結腸癌のため入院し、右半結腸切除術当日である。不整脈の既往はない。術中経過は特に問題なかった。術後、患者は回復室に入室し、6時間を経過したところで痛みは我慢できる程度であるという。心電図モニターの画面上、心拍数は110/分、整で、SpO₂ 100% (マスク 3 l/分 酸素投与下)である。心拍数の記録を確認したところ、回復室に入室後は80台/分で経過していたが、30分前から次第に増加し現在の値に達している。

現時点での対応として適切なのはどれか。

- a 血圧記録の確認
- b 早期離床の推奨
- c 細胞外液の急速投与
- d カルシウム拮抗薬の投与
- e 自動体外式除細動器 (AED) の装着

22 75歳の女性。やせが目立ってきたことを主訴に来院した。30年前から高血圧症に対して、15年前から骨粗鬆症に対してそれぞれ治療中である。10年前に脳梗塞を発症し寝たきりとなった。自宅で家族が介護してきたが、四肢関節の拘縮が徐々に進行し、最近では体位変換も困難である。半年前から経口摂取が不良となり、やせが目立ってきた。身長 140 cm、体重 31 kg。皮膚は乾燥している。仙骨部の写真(別冊 No. 3)を別に示す。

この患者で仙骨部の病変のリスクファクターとなっているのはどれか。

- a 女性
- b 低身長
- c 低栄養
- d 高血圧
- e 皮膚の乾燥

別 冊

No. 3

23 3歳の男児。嘔声と喘鳴とを主訴に母親に連れられて来院した。2日前から発熱、鼻汁および嘔声が出現し、本日夕方から吸気性喘鳴と犬吠様咳嗽を認めたため小児科を受診し、その後耳鼻咽喉科を紹介された。陥没呼吸やチアノーゼは認めない。SpO₂ 98 % (room air)。

まず行うべき検査はどれか。

- a 頸部 CT
- b 後鼻鏡検査
- c 頸部超音波検査
- d 喉頭内視鏡検査
- e 副鼻腔エックス線撮影

24 32歳の男性。建築現場で作業中に約10 m 転落し、搬入された。来院時、ネックカラーを装着されバックボード上に全脊椎固定されており、意識レベルはJCS I-3で右殿部の痛みがあるという。身長178 cm、体重70 kg。体温36.4℃。脈拍112 / 分、整。血圧90/50 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂ 100 % (リザーバー付マスク10 l/分 酸素投与下)。気道は開通しており呼吸困難はない。皮膚は蒼白で冷汗を伴い、橈骨動脈の拍動は弱い。明らかな外出血はなく、右下肢は変形は明らかでないが左と比較すると短縮がある。顔面、頸部および胸部に異常を認めない。超音波検査で心嚢、両側の胸腔および腹腔に液体貯留を認めない。胸部エックス線写真に異常を認めない。

次に行うべき単純エックス線撮影の部位はどれか。

- a 頭 部
- b 頸 椎
- c 腹 部
- d 骨 盤
- e 右足趾

25 58歳の男性。30分前に突然背部痛を訴え、顔面を含む左半身麻痺が出現したため搬入された。意識レベルはJCS II-10。体温36.2℃。脈拍76/分。右上肢血圧84/42 mmHg、左上肢血圧152/68 mmHg。SpO₂ 98 % (マスク4 l/分 酸素投与下)。血液検査では腎機能障害を認めなかった。頭部CTでは明らかな異常所見を認めなかった。

直ちに行う検査として適切なのはどれか。

- a 脳波検査
- b 頭部血管造影
- c 頭部単純MRI
- d 胸腹部造影CT
- e 心筋血流SPECT

26 75歳の男性。転びやすいことを主訴に来院した。4日前から少しずつ歩行が不安定となり転倒しそうになることが多くなった。家族は1週間前から受け答えもつじつまが合わないと言う。1か月前、歩行中に転倒して右側頭部を打ち、裂創を生じたため他院で縫合処置を受けた。

最も考えられるのはどれか。

- a 脳挫傷
- b 脳梗塞
- c 急性硬膜外血腫
- d 慢性硬膜下血腫
- e びまん性軸索損傷

27 66歳の男性。胸部違和感を主訴に来院した。1週間前から持続性の前胸部の違和感を感じるようになった。自宅近くの診療所を受診し胸部エックス線写真で異常を指摘されたため紹介されて受診した。身長 170 cm、体重 65 kg。脈拍 68/分、整。血圧 130/72 mmHg。呼吸数 18/分。SpO₂ 96 % (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。既往歴に特記すべきことはない。喫煙は 20 本/日を 45 年間。初診時の胸部エックス線写真(別冊 No. 4A)と胸部造影 CT(別冊 No. 4B)とを別に示す。

出現しやすい症候はどれか。

- a 嗝 声
- b 縮 瞳
- c 脱力感
- d 上腕のしびれ
- e 顔面と上肢の浮腫

別 冊
No. 4 A、B

28 45歳の女性。脳出血後のリハビリテーションのため入院中である。脳出血にて2週間入院し、2か月前に回復期リハビリテーション病棟に転院した。脳出血の発症前には、共働きで会社勤めの夫と持ち家に2人暮らしであった。右片麻痺と言語障害とを認める。会話の理解は良好で、状況判断も適切であるが、発話は困難である。T字杖と短下肢装具とを用いた平地歩行が可能であり、階段昇降と入浴には介助を要する。自宅内に段差が多く、トイレは和式である。

退院に向けたカンファレンスで検討すべきなのはどれか。

- a 家屋改造
- b 職業訓練
- c 外出制限
- d 夫の会社退職
- e 電動車椅子の準備

29 70歳の男性。腹膜炎の手術後で入院中である。2週前にS状結腸憩室の穿孔による急性汎発性腹膜炎にて緊急手術を施行された。手術術式はS状結腸切除術・人工肛門造設術であった。術後の経過は良好で、術後7日目に流動食を開始し、術後8日目にはドレーンの排液の性状に問題がなかったためドレーンは抜去した。現在は中心静脈栄養を併用しながら5分粥食を全量摂取している。術後4日目以降発熱を認めなかったが、昨夜急に悪寒戦慄を伴う39℃の発熱があった。他に症状はなく食欲も保たれている。

対応として適切なのはどれか。

- a 絶飲食
- b 便培養検査
- c 緊急開腹手術
- d ドレーン再挿入
- e 中心静脈カテーテル抜去

30 50歳の女性。不眠を主訴に来院した。寢床に入っても何時間たっても眠れないのがつらいと訴える。一方、ソファでテレビを見ているとウトウトすることがある。睡眠がとれた翌日は気分もよく趣味を楽しむことができる。

この患者への指導として適切なのはどれか。

- a 「昼寝をしてください」
- b 「寢床で本を読んでください」
- c 「起床時間を遅くしてください」
- d 「早めに寢床に入ってください」
- e 「眠れない時は寢床から出てください」

次の文を読み、31、32の問いに答えよ。

48歳の女性。左下肢の腫脹を主訴に来院した。

現病歴 : 3日前から特に誘因なく急に左下腿の腫脹、疼痛が出現した。

既往歴 : 2年前から更年期障害に対してホルモン補充療法を受けている。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現 症 : 意識は清明。身長 154 cm、体重 65 kg。体温 36.8℃。脈拍 92/分、整。血圧 110/72 mmHg。呼吸数 15/分。SpO₂ 96 % (room air)。眼瞼結膜に貧血を認めない。眼球結膜に黄染を認めない。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下肢の写真(別冊 No. 5)を別に示す。左下肢には部分的に表在静脈拡張が認められ、左下肢全体に圧痛を認めた。

別 冊

No. 5

31 この患者で最も考えられる疾患についての諸検査の検査特性を表に示す。

	感 度	特異度
D ダイマー測定	89 %	55 %
空気容積脈波検査	85 %	91 %
下肢静脈造影 MRA	91 %	93 %
血小板シンチグラフィ	73 %	68 %
下肢静脈圧迫超音波検査	91 %	98 %

検査特性と侵襲を考慮した場合、確定診断のためにまず選択すべき検査はどれか。

- a D ダイマー測定
- b 空気容積脈波検査
- c 下肢静脈造影 MRA
- d 血小板シンチグラフィ
- e 下肢静脈圧迫超音波検査

32 この疾患の治療として適切なのはどれか。

- a 抗凝固療法
- b 利尿薬投与
- c 股関節離断術
- d 経皮血管形成術
- e リンパ管静脈吻合術

次の文を読み、33、34の問いに答えよ。

42歳の女性。頭痛を主訴に来院した。

現病歴 : 3年前から月1、2回の頭痛を自覚していた。頭痛は両側の後頭部を中心とした持続性の鈍痛で、肩こりを伴っている。夕方になると頭痛が悪化するが、生活に支障をきたすほどの痛みではない。家事などで体を動かしている時のほうが多少痛みは和らぐ感じがする。悪心はない。頭痛に大きな変化はないが、昨日知人が脳梗塞で入院したという話を聞き、心配になって受診した。

既往歴 : スギ花粉症。

生活歴 : 事務職。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親が56歳時にくも膜下出血で死亡。母親が高血圧症で治療中。

33 身体診察を開始しようとした時に、患者が「今日、頭の CT を撮ってもらえませんか」と希望してきた。

現時点の医師の返答として最も適切なのはどれか。

- a 「まだ診察の途中ですよ」
- b 「人間ドックで相談してください」
- c 「予約制なので今日はできません」
- d 「頭の CT を撮ってほしいですね」
- e 「あなたの状態では CT を撮る必要はありません」

34 現 症：意識は清明。身長 158 cm、体重 52 kg。体温 36.3℃。脈拍 76/分、整。

血圧 118/72 mmHg。神経学的所見に異常を認めない。

現時点で最も考えられるのはどれか。

- a 片頭痛
- b 群発頭痛
- c 緊張型頭痛
- d 三叉神経痛
- e 側頭動脈炎

次の文を読み、35、36の問いに答えよ。

60歳の女性。上腹部痛を主訴に来院した。

現病歴 : 1か月前から食後に腹痛を自覚するようになった。昨夜、還暦祝いに家族と外食をした後に悪心と右肩から背部に放散する上腹部の痛みがあり受診した。今朝からやや色の濃い尿に気付いたという。

既往歴 : 18歳時に虫垂切除術。

家族歴 : 母親が糖尿病。

現症 : 意識は清明。身長152 cm、体重62 kg。体温37.5℃。脈拍92/分、整。血圧124/70 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂ 98 % (room air)。眼球結膜に黄染を認める。

35 この患者の身体所見として最も考えられるのはどれか。

- a 腸雑音の減弱
- b 腹壁の皮下出血
- c 肺肝境界の消失
- d 左肋骨脊柱角の叩打痛
- e 深吸気時の右季肋部圧痛

36 この患者の血液検査所見として最も考えられるのはどれか。

- a ALP 高値
- b 尿酸高値
- c 白血球減少
- d プロトロンビン時間短縮
- e 間接型優位のビリルビン高値

次の文を読み、37、38の問いに答えよ。

69歳の女性。発熱を主訴に来院した。

現病歴 : 2週間前から38℃台の発熱が出現し、非ステロイド性抗炎症薬を内服し、解熱と発熱とを繰り返していた。その後、徐々に食欲が減退し、最近1週間は発熱時は39℃を超えるようになった。かかりつけ医で胸部エックス線撮影と尿検査とを行い、異常を指摘されなかった。受診前日に2回軟便があった。咽頭痛、咳、痰および排尿痛はない。

既往歴 : 高血圧症で治療中。

生活歴 : 海外渡航歴とペット飼育歴とはない。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。体温 38.4℃。脈拍 96/分、整。血圧 160/66 mmHg。呼吸数 20/分。SpO₂ 96% (room air)。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。項部硬直を認めない。心尖部にⅢ/Ⅵの汎(全)収縮期雑音を認める。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。脊椎棘突起の叩打痛を認めない。肋骨脊柱角に叩打痛を認めない。四肢に浮腫を認めない。経胸壁心エコー検査では僧帽弁の逆流と僧帽弁の疣贅とを認めた。

37 診断に有用な検査はどれか。

- a 便培養
- b 血液培養
- c 抗核抗体測定
- d 胸部エックス線再検
- e 上部消化管内視鏡検査

38 この患者に認められる可能性のある身体所見はどれか。

- a 扁桃の白苔
- b 下肢静脈瘤
- c Kernig 徴候
- d 血圧の左右差
- e 指先の有痛性紅斑

